

星野 道夫(著) 文藝春秋(発行)



「頬を撫でてゆく風の感触も甘く、季節が変わってゆくことしていることがわかります。アラスカに暮らし始めて十五年がたちましたが、ぼくはページをめくるようにはっきりと変化してゆくこの土地の季節感が好きです。人間の気持ちとは可笑しいものですね。どうしてもなく些細な日常に左右されている一方で、風の感触や初夏の気配で、こんなにも豊かになれるのですから。」この本を読んだ時、私は冒頭から星野道夫ワールドに魅了されてしまった。アラスカの自然をこよなく愛していた著者の優しい人柄が伝わってくる文章だ。星野道夫さんは多くの人々から愛されていたことだろう。

この本『旅をする木』は、写真家でも知られる星野道夫さんがアラスカの自然に魅せられ、そこに移り住んで経験したアラスカでの生活などを綴った一冊である。アラスカの力強く壮大な大地や海の風景が目につかぶ。まるで、アラスカの大地と一緒に旅をしているかのような不思議な一冊である。著者がアラスカで暮らすことを決めたのは二十二歳の頃。アラスカ大学への入学試験の点数が足りなかったが、極北の自然に

ついてじっくり取り組みたいと考え、学部長に頼み込んで入学を許可してもらったそうである。きっとアラスカでの生活は、私たちが考えている何十倍も人は自然の中で生かされているということ意識させられるに違いない。

私は旅行記を読むのが好きだ。自分の知らない場所へ連れていってくれ視野を広げてくれるような気がする。読んだ後は、自分がちっぽけな世界しか見えていなかったことを思い知らされる。毎日が刻々と過ぎていく中で、私たちが自然を意識することはどのくらいあるだろう。アラスカにいる星野道夫さんから手紙を受け取ったような気分になれるこの一冊をおすすめしたい。忙しい人にこそぜひ手にとって欲しい本である。たまには忙しい日常から離れ、ゆったりと流れるアラスカでの時間を共有してみてもどうか。

資料奉仕部 一般図書班 清水 萌美

KOTOBA
N O
U M I

宮城県図書館だより

ことばのうみ

MIYAGI PREFECTURAL LIBRARY No. 63 2019.7

特集 **子どもの本を読んでみませんか？
子どもの本展示会**

図書館からのお知らせ INFORMATION

企画展「いがらしみきお展」を開催中です

宮城県は数多くの漫画家が活躍されています。そんな宮城県出身で仙台市在住の漫画家・いがらしみきお先生が今年で漫画家生活40周年を迎えられました。それを記念し、先生の著作や関連資料をご紹介します。また、昨年当館に寄贈されたサイン色紙も初公開しています。ぜひお立ち寄りください。

- 期 間 令和元年6月15日(土)～令和元年9月8日(日)
- 時 間 図書館開館日の午前9時から午後5時まで
- 場 所 宮城県図書館2階 展示室

平成31年度みやぎ県民大学「災害・防災を知る～様々な視点から～」受講者募集

今年度は災害や防災をテーマに全4回の講座を行います。教育の現場や歴史的観点など異なる視点で災害や防災を捉えます。皆様のご参加をお待ちしています。

- 日程・内容 第1回 令和元年8月24日(土) 「高等学校における防災減災教育の取組」
第2回 令和元年9月7日(土) 「県立測候所物語～近代宮城の気象観測と災害」
第3回 令和元年9月21日(土) 「文化遺産の防災・減災～よりよい復興のために」
第4回 令和元年10月5日(土) 「宮城県図書館の震災伝承活動」
- 時 間 午前10時30分から午後0時(第1回・4回は開講式・閉講式のため午後0時15分まで)
- 会 場 宮城県図書館2階 ホール養賢堂
- 定 員 50名(先着順・事前申し込みが必要です。詳しくは、宮城県図書館ホームページ (<http://www.library.pref.miyagi.jp/>)をご覧ください。

第50回子どもの本展示会の様子



第50回子どもの本展示会記念講演会



絵本作家とよかずひこさん講演会の様子

表紙エッセイ 著者紹介

相戸結衣(あいと・ゆい)

宮城県富谷市在住。宮城県第二女子高等学校(現・仙台二華高等学校)、岩手大学人文社会科学部卒業。『日本ラプストリー大賞』大賞を受賞し、2013年に

『さくら動物病院(宝島社)』でデビュー。近著に『流鏑馬ガール!〜青森県立一本杉高校、一射必中!』(ポプラ文庫ビジュアル)がある。

ことばのうみ

題字 作家・高田 宏氏

本誌タイトル「ことばのうみ」は、本館第8代館長・大槻文彦編著による日本最初の近代的国語辞典『言海(げんかい)』(1889～1891年刊行)に由来する。

第63号
2019年7月発行
編集・発行 宮城県図書館

〒981-3205
仙台市泉区薬山一丁目1番地1
TEL022-377-8441(代表)
FAX022-377-8484
ホームページ
<http://www.library.pref.miyagi.jp/>

県内27校で、日々の学習をサポートします。

<p>小学生 成長盛りに楽しく勉強</p> <p>中学生 志望校合格まっしぐら</p> <p>英智学館は継続して学習ができる環境をご用意しています</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 巡回は一切なし個別指導 ✓ 回数・曜日・時間帯は希望で選択可 ✓ 一人ひとりの専用カリキュラム ✓ 急な欠席でも安心授業振替制度 <p>お気軽に各校にお問い合わせください</p>	<p>高校生 目標をランクアップ</p> <p>代ゼミサテライン予備校 英智</p> <p>合格に向け計画的な学習</p>	<p>●栗駒校 ●仙台八乙女校 ●築館校 ●仙台北中山校 ●若沼校 ●仙台南中山校 ●山形校 ●仙台長町校 ●古川駅前校 ●美田園校 ●古川北町校 ●名取東の杜校 ●小牛田校 ●大河原校 ●若山山校 ●角田校 ●中新田校 ●仙台福室校 ●大和校 ●数仙沼三日町校 ●成田校 ●数仙沼三日町校 ●杜のまち校 ●志津川校 ●仙台校</p>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

広告 東北に63校
個別指導実績30年以上

いっしょに
未来をはじめよう。

英智学館は全て個別指導
一人ひとりの目的に合わせた
学習プランをご提供します

未来を変える
無料体験
受付中!

お気軽に
ご連絡ください

EICHKAN 英智学館 英智個別指導スクール
代ゼミサテライン予備校 英智

各校の詳細情報はHPをご覧ください <http://www.eichkan.co.jp/>

『心の処方箋』
小説家 相戸結衣

子供の頃、親の都合で引越しが多かった。大人になった今ではそれなりの処世術を身に付けているけれど、未熟な子供が新しいコミュニティに入って行くのは至難の業だった。そんな私を救ってくれたのは、物語の世界だ。舞台は、日本のどこかの貧しい村だったり、中世のお城だったり、鬱蒼とした森の中に突然現れた異世界トネルだったり、さまざまである。私は主人公と一緒にわくわくしながら冒険をし、ときには大切な人を亡くして悲しみ、最後は奇跡にふさわしい。本が私に、広い世界を見せてくれた。

東日本大震災が起きたのは、父がガンで入院しているときだった。道はでこぼこで、町は真つ暗。テレビでは繰り返し悲惨なニュース映像が流される。私は父に付き添いながら、傍らで物語を綴っていた。「夢物語」と笑われそうなの、このラプソディだ。絶望的な話を書いたら、現実に飲みこまれてしまいそうだった。

そのとき書いた小説が、とある新人賞で大賞をとり、書籍となって世の中に出た。カラフルな表紙に触れるたびに思う。この物語を必要としている誰かのもとに、届いてくれたらいいな。つらい現実を、一瞬でも忘れてくれたらいいな。エッセイ小説は、心療でもあり、心癒す処方箋でもあるのだ。

特集

子どもの本を読んでもみませんか？ 子どもの本展示会

開催期間：平成31年4月20日(土)～令和元年5月10日(金) 開催場所：宮城県図書館1階エントランス



子どもの本展示会は、今年度で第50回を迎えました。開催期間が、平成31年4月20日から令和元年5月10日までと、まさに「平成」最後そして「令和」最初の子どもの本展示会の開催になりました。また50回を記念して、絵本作家のとよたかずひこ氏を迎え記念講演会も行い、多くの方に参加いただきました。たくさんの方々のご来場され、児童書を手に取っていただくことができました。たいへんありがとうございました。

子どもの本展示会とは？

展示会は、4月23日の「子ども読書の日」また、4月23日から5月12日までの「子どもの読書週間」に併せて毎年開催しています。図書館はもちろんのこと、学校、地域、家庭など、さまざまな場面の「子どもと本の出会い」に役立つことを目的として、前年に出版された児童書をまとめて展示しています。今年度は、2018年に出版された本の中から2,300冊の本を展示し、新しい本と出会いの場として、また選書の参考としてたくさんの方にご来場いただきました。

子どもの本展示会は大人が見てもいいの？

展示した本は、0歳から中学生までを対象に出版されたものがほとんどですが、もちろん大人の方もご覧いただけます。保護者の方

や子どもの読書活動を推進する方には選書の参考として、また、普段児童書に接する機会の少ない方には、豊かな児童書の世界に触れる機会として興味を持っていただければ幸いです。また、児童資料について研究している大人の方向けの本もあります。

展示会終了後、展示した本はどうなるの？

終了後は、「移動展示会」として、希望のあった県内の市町村図書館や公民館図書室、小・中学校及び特別支援学校に貸し出されます。そして、それぞれ貸し出された先で本を展示していただき、さらにたくさんの方々に見ていただくようになります。



50年間続く子どもの本展示会

はじまりは榴ヶ岡から

●第17回
子どもの本展示会：
昭和61年(1986年)

第1回の子どもの本展示会は、昭和45年(1970年)宮城県図書館が仙台市榴ヶ岡にあった時から始まりました。

右は榴ヶ岡時代の写真です。3階の文化室を会場にして多数の本を展示している様子がわかります。



そして現在の紫山へ

●第29回
子どもの本展示会：
平成10年(1998年)
5月14日～17日

会場：2階ホール養賢堂
展示冊数約1,400冊、
来場者約1,200人



その後、平成10年(1998年)3月に現在の仙台市泉区紫山の地に移転してからも、毎年子どもの本展示会を開催してきました。

現在の宮城県図書館が開館して初めての子どもの本展示会が開催されました。

大震災を乗り越えて

●第42回
子どもの本展示会：
平成23年(2011年)
6月10日～6月23日

会場：2階ホール養賢堂
展示冊数約1,500冊、
来場者数約840人



平成23年3月11日に発生した東日本大震災とその後しばらく続いた大きな余震により、宮城県図書館も、所蔵資料や施設設備が大きな被害を受けました。そのため5月12日までおよそ2ヶ月間の臨時休館を余儀なくされました。しかし、展示会を心待ちにする声を多数いただき、遅れて6月に展示会を開催することになりました。



開放的なエントランスへ

●第44回
子どもの本展示会：
平成25年(2013年)
4月26日～5月8日

会場：1階エントランス
展示冊数約1,800冊、
来場者数約2,200人



場所を今までの2階ホール養賢堂から1階のエントランスに移して開催しました。親子でいらした方はもちろんですが、一般の方々にも関心を持っていただき、例年のおよそ3倍の来場者数になりました。



そして令和の時代へ

●第50回
子どもの本展示会：
平成31年(2019年)
4月20日～令和元年
5月10日

会場：1階エントランス
展示冊数約2,300冊、
来場者数約3,816人



会期中に記念講演をしていただいた絵本作家とよたかずひこさんの作品コーナーは、子どもたちに大人気でした。また会場では、読み聞かせをする親子、絵本に夢中になる子どもたち、熱心に児童書に見入る大人の方の姿が見られ、それぞれに子どもの本の世界に触れるひとときを楽しんでいる様子がうかがえました。

絵本作家とよたかずひこさん講演会

日時：平成31年4月28日(日)13時30分
場所：2階ホール養賢堂

絵本作家のとよたかずひこさんは、仙台市出身で多くの人気絵本を書かれています。とよたさんの絵本や紙芝居は、子どもたちはもちろんのこと大人も魅了されてしまいます。それは、とよたさんご自身が体験されたことが本にたくさん盛り込まれていて、親しみやすく共感できるからです。例えば、列車の駅名から想像してできたおはなしのこと、人気シリーズ「バルボンさん」の名前の由来やどんどん膨らんでいく主人公たちの家族構成、講演会で中学生に言われた衝撃の一言など、聞いている私たちが、つい「くすっ」と笑ってしまうような興味深く、おもしろいお話をしていただきました。さらに、シリーズ本が多いのは、細く、でも長く子どもに読み続けられる作品にしたかったから、また、お子さんに楽しんでほしいので描き始めたことなど、とよたさんの絵本をみると納得できるお話がたくさん出てきました。そして、お話の始

りや途中、最後にも、7冊の大型絵本や大型紙芝居を読み聞かせしていただきました。とよたさんが読むと、作品の軽快なリズム感や感情が伝わってきて、絵本の雰囲気を感じることができました。最後にとよたさんから、かわいらしくあたたかいイラストを丁寧に描いたサインをいただきました。気持ちが明るくなるような楽しく貴重な時間を過ごすことができました。



図書館 around the みやぎ

シリーズ第55回 女川つながる図書館

女川町生涯学習課社会教育指導員 島貫 真行

2011年3月11日に発生した東日本大震災の津波で女川町生涯学習センター図書室は全ての蔵書約4万冊を流出しました。その後、全国各地の数多くの方々から支援、寄贈をいただき、絵本を中心とした「ちゃっこい絵本館」を2ヶ月後に開設することができました。その後も寄贈をいただくことが続き、震災から1年後には女川町勤労青少年センターに「女川つながる図書館」を仮開館しました。

そして、2018年10月1日、新たに建設された女川町生涯学習センター内に約4万5千冊の蔵書を揃え、新たに開館しました。子どもにのんびりと本を読んであげられる読み聞かせコーナーや、静かに読書を楽しめる海見える窓辺の閲覧席などを設けた、明るく開放感あふれる図書室です。

特色ある取組みとしては、7年前から「子ども司書養成講座」を行っています。小学4～6年生を対象に図書館の役割や司書の仕事を

学んだり、読み聞かせの体験などをしたりしています。毎月購入する図書について、「図書選定委員会」を開催しています。保育所職員、小・中学校の先生、読み聞かせサークルの代表に来ていただき、本の選定や情報交換、要望等を聞いています。お近くにお出でになった際は、ぜひお立ち寄りください。



女川つながる図書館

蔵書冊数/5万冊
開館時間/平日：10時～20時
土日祝祭日：10時～17時
●休館日/毎月最終水曜日・年末年始
住所/〒986-2261
牡鹿郡女川町女川浜字女川178番地
KK-8街区1画地
TEL:0225-90-3217 FAX:0225-90-3218